

G8 北海道洞爺湖サミットを振り返って

報告者：連携推進委員 大橋正明
(JANIC/2008 年 G8 サミット NGO フォーラム)

1. 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムについて

- ー07 年 1 月、JANIC が中心的に呼びかけて結成、JANIC が事務局を担当
- ー目的は、洞爺湖サミットに向けた幅広い政策提言活動（アドボカシー）を行うこと、より広い意味では、サミットを市民に開かれたものにする
- ー三つの分野(環境、開発・貧困、平和・人権)ごとにユニット、それぞれが提言活動
- ー初の分野横断で、141 団体が参加

2. サミットプロセスにおける市民参加の機会

- ーシェルパ、サブシェルパ、環境省審議官などとの政策対話
- ー4 月のシビル G8 対話で、G8 のシェルパと内外の NGO の対話(外務省の旅費負担)
- ーG8 開発大臣会合については、レセプション参加に留まった
- ー6 月、福田首相と内外の NGO のリーダーの対話
- ーサミット準備室との、主にロジスティックに関する綿密な連絡体制
- ー期間中、国際メディアセンター (IMC) に NGO 向けパス百人分と、NGO の活動および記者会見スペース
- ー「100 万人のたんざくアクション」キャンペーン (約 70 万人の賛同の声)
- ー期間中、札幌にて「市民サミット 2008」の開催
- ー様々なマスメディアによる取材

3. NGO 側から見た振り返り (個人的感想)

- ープロセスにおける市民/NGO 参加の機会は、相当に実現
- ー外務省担当者などとの、信頼関係に基づいたやり取りの実現 (関連部局への紹介も)
- ー首相やシェルパなどの、相当の誠意を感じられるやり取り
- ーしかしサミットの結果自体には、満足できない残念さ

4. 今後の課題 (私見)

- ー市民社会/NGO に対する、政府関係者の一層の理解と制度的受け入れ(IMC パス数や取り扱いなどの改善)
- ー外務省とのパイプの設定プロセスと、本定期協議会の関係の明確化 (TICAD 関連はアフリカ局、NGO フォーラムは経済局、GII/IDI に関する外務省と NGO との懇談会、10 年の生物多様性条約 COP10 は?) ←本協議会は、国際協力局に関するもの限定?

以上